

★ 3人の武将の意外な一面を知ろう！

くみ組 ばん番

なまえ

次つぎの史料しりょう（歴史れきしの文献ぶんけん）から、3人の武将ぶしやうの「意外いがいな一面いちめん」を推察すいさつする歴史家れきしかもいます。

ぶしやう 武将

しりょう 史料

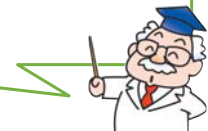
れきしか みかた ある歴史家の見方



おだのぶなが
織田信長

【信長公記】（やさしくしたもの）
信長公は、16～17才ころまでは、馬のけいこを朝夕行い、3月～9月までは川で水泳の練習をするなど、他の遊びはほとんどしなかった。やりの訓練をご覧になったが、『短いやりはよくない』といて、6mほどの長やりにさせた。

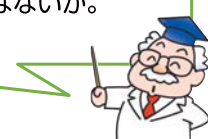
信長は、「大うつけ」といわれているが、武術の訓練にはげみ、武器の研究をおこたらなかった、真剣でまじめな若者であったともいえるぞ。




とよとみひでよし
豊臣秀吉

【関白任官記】（やさしくしたもの）
わが母は、われを身ごもったときに、めでたい夢を見た。それは夜のことであったが、日光が室内に満ちあふれ、まるで昼のようであった。早速易者に占わせたところ、『この子は大人になると徳を四海に輝かし、威を八方に広げる』と答えた。

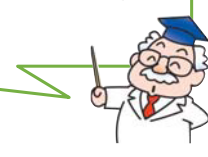
秀吉は、このような言い伝えが残るほど、身分の低い、まずしい生まれの自分にひけ目を感じていたらともいえるのではないか。




とくがわいえやす
徳川家康

【織田軍の大敵・武田信玄との戦い】
家康が29才のとき、同盟を結んでいた織田信長の援軍として武田信玄の軍と戦った。信玄は家康の用心深い性格を利用し、三方ヶ原（静岡県）に家康をおびき出した。家康は、その誘いにまんまと乗り、我慢することなく突撃して大敗した。

家康は、がまん強い性格だと言われているが、いつもそうだったとは限らない。その戦いぶりからも、案外、短気だったのではないか。



★ 上の史料を読んで、3人に対してもっていたイメージと大きくちがった人を1人選び、どのようにちがったのか書いてみましょう。

▶ 選んだ武将
